

令和元年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。（学びのスタンダード、学校研究の継続推進）	① 県工学びのスタンダードを活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工 Thinking time」などを通して、根拠をもとに論理的に思考することができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 【改定】 A 60%以上 B 50%～60%未満 C 40%～50%未満 D 40%未満	（教務課・各教科）最終評価（A） 学校研究の公開授業及び、互見授業などの取り組みを通して、「県工 Thinking time」が着実に浸透していることが見て取れる。「思う」が12%、「やや思う」が53%と、65%の生徒が論理的に思考できるようになったと実感していることがわかる。課題としては、生徒は正解を答えることに意識が向きやすいため、“正解を出すこと”と“論理的思考”とはイコールではないということを根気強く知らせることが大切だと思われる。
	② 生徒の主体的な学習を促し、学習の定着を目指す。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【継続】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	（教務課・各教科）最終評価（A） 「できた」と答える生徒の割合が32%、「ややできた」が50%で、合わせて82%である。中間評価以降、各学科での資格試験への挑戦が多くあり、休み時間を使っての学習や放課後の補習に意欲的に取り組んでいる生徒の姿が多く見られた。課題としては、授業の予習・復習や資格取得に意欲を持たずにいる生徒たちに工業高校に在籍しているメリットを丁寧に説明し、一つでも多くの検定・資格取得に挑戦するような動機付けが大切であると考ええる。
	③ 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかを、教師対象の自己評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 【継続】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	（教務課・全教員）最終評価（A） 「している」が41%、「ややしている」が52%で合わせて93%である。ICT機器を積極的に使用して、教師主導で授業を展開するだけでなく、ICT機器を生徒に使用させてALを充実させる工夫が多く見られた。課題として、AL指数という概念を用いて、すべての授業で50分のうち5分でもALに取り組むことも必要になると考える。
	④ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 【継続】 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	（学習情報課）最終評価（B） 肯定的な回答は69%であり、中間報告の66%よりやや改善されたが、B評価である。今後は、プロジェクターやスクリーン、周辺機器の整備を更に推し進めるとともに、ICT機器を活用した授業に参考となる資料や研修会などの情報提供にも力を入れていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「県工 Thinking Time」を宣言し、生徒に主体的に考えさせ、自ら学習する姿勢をつけさせるという目標が評価につながったのではないかな。 ・ルーブリックの積極的な活用が功を奏しているように思う。コミュニケーション力・思考力・創造力は、現代社会で最も求められている能力である。自分は何ができるのか、自分で考え、行動できる人材が求められている。 ・①について、他の項目に比べて、「思う」と「やや思う」の割合を見ると、「思う」の割合が少ない点が気になる。 ・「論理的に思考することができる」というアンケートの設問は、生徒が回答しにくい。「根拠を基に発言することができる」や「書くことができる」等、具体的に判断しやすい基準を設けた方がよい。 ・アンケートは、なるべく生徒が具体的に判断できる基準を設けるとよい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上や主体的・協働的に学ぶ力の育成に向けて、引き続き学校研究を推進し、全職員をあげて授業改善に取り組む。 ・授業におけるICT機器の活用をさらに促進し、工夫を凝らした授業づくりを図る。 ・生徒アンケートの内容を見直し、生徒が判断しやすい基準により評価を行う。

令和元年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>2 将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。（人間力スタンダード、校訓の活用）</p>	<p>① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。</p>	<p>生徒指導課 各学年</p>	<p>挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 [継続]</p> <p>A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満</p>	<p>（生徒指導課・各学年）最終評価（ A ） 常に挨拶している50%、だいたい挨拶している45%で、95%の生徒が前向きに挨拶をしていると回答した。しかし、生徒から積極的に挨拶をしているのではなく、先生から挨拶されて返す挨拶が多いように感じる。生徒自らがしっかりと挨拶できるようにしていきたい。そのためにも、まず運動部が挨拶の励行を徹底し、学校を引っ張っていく必要がある。</p>
	<p>周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。</p>	<p>総務課</p>	<p>遅刻者数減少の割合で判断する。 [改定]</p> <p>A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p>（生徒指導課・各学年）最終評価（ D ） 遅刻者の延べ人数は、2月末現在で390人（昨年度383人）と昨年に比べ約2%増加している。遅刻者の多い学級の担任には、個別指導の依頼や、科長・学年主任にも指導の依頼をしている。場合によっては、学年集会を開いて、時間厳守の重要性を指導していただいている。今後も継続して行っていきたい。</p>
	<p>② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。</p>	<p>生徒指導課 学年団</p>	<p>生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 [継続]</p> <p>A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満</p>	<p>（総務課）最終評価（ B ） 学校周辺美化活動に参加した生徒にアンケートを実施したところ、積極的に地域貢献できたと思うかという問いに、前回同様の86%が、思う、やや思うと回答した。同時に行った保護者及び教員対象のアンケートでは、保護者が96%と前回より4ポイント増加し、教員は94%と2ポイント減少したが、共に高い回答を得ている。この活動は平成19年度から実施しており、今年度で13年目を迎える。参加生徒は1、2年生である。参加した生徒は積極的に活動しており、「みんなで協力できた」、「溝にごみが多かった」などの感想があった。本活動は本校にとって定着した活動と成っており、今後も主旨等を確認しながら継続していきたい。</p>
	<p>③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。</p>	<p>生徒指導課 全職員</p>	<p>違反指導件数減少の割合で判断する。 [継続]</p> <p>A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増</p>	<p>（生徒指導課・学年団）最終評価（ D ） 石川県警察本部より毎月送られてくる自転車違反指導件数は、2月末現在で累計86件（昨年度67件）であった。また、交差点での接触事故件数も17件（昨年度10件）と激増している。全校集会や学年集会等で交通ルールの遵守を訴えたりしたのだが、自分の問題としてとらえることができているのが現状である。今後も根負けせず、街頭指導を継続していきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、生徒の判断だけでなく、先生方の判断も加えて検証すべきではないか。 ・遅刻のデータは、同じ生徒が回数を重ねているのであれば、延べ人数ではなく、対象となる生徒の人数で判断すべきではないか。その方が実態を正確に把握できる。 ・遅刻や自転車マナーが悪い。社会のマナーを教えるのは時間がかかるが、言い続けるしかないと思う。 ・交通ルールの違反件数が多過ぎる。自分の身は自分で守る必要がある。高校生はもっと自覚をしてほしい。生徒は県警が出した数字を知っているのか。 ・アンケートを見ると、ほとんどの生徒が自転車マナーに気を付けていると回答しているのに、保護者の回答では、それよりも低くなっている。 ・交通ルール違反の件数は、遅刻が多いのと連動していないか。遅刻しただけからといって、慌てて登校すると余計に危ない。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行について、実態を正確に把握し、適切な対策を講じていく。 ・社会人として必要な規範意識の高い生徒の育成のため、特に遅刻減少および交通ルールの遵守を重点課題として、今後も粘り強く指導をしていく。 ・学科、学年、部活動との連携を強化し、教師間で生徒の情報を共有しながら、今後もきめ細かい指導を行っていく。 			

令和元年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
<p>3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。（技能スタンダードの推進）</p>	<p>① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。</p>	<p>進路指導課 3年学年団</p>	<p>就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満</p>	<p>（進路指導課・3年学年団）最終評価（A） 学校推薦176名のうち、1社目で内定した者は168名であった。（内定率96%） 県内企業では事務系の受験や適性の不一致により、6名が不採用であった。また、県外企業は31名受験のうち、2名が不採用であった。その後の再受験により、就職希望者全員（100%）の内定が得られた。今後、面接や筆記試験対策をさらに充実させていきたい。</p>
	<p>② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。</p>	<p>工業7学科 教務課</p>	<p>認定者数（特別表彰+ゴールド+シルバー）で判断する。 [継続] A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満</p>	<p>（教務課・工業7学科）最終評価（A） 特別表彰8名、ゴールド40名、シルバー22名となり、昨年に比べて特別表彰、ゴールドの認定者数は増加したが、シルバーの認定者数が減少した。資格取得の指導体制を一層充実させる必要がある。（昨年度：特別表彰4名、ゴールド39名、シルバー34名）</p>
	<p>③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。</p>	<p>工業7学科</p>	<p>〔地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会〕の場合は、大会出場の難易度で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した</p>	<p>〔地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会〕（工業7科）最終評価（B） ジャパンマイコンカーラリー2020北信越大会 画像処理部門2位（全国大会出場） 全国高等学校ロボット競技大会県大会1位（全国大会出場） 石川県ロボットアメリカンフットボール大会1位（全国大会出場） 高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門県大会優勝、北信越大会敗退 高校生ものづくりコンテスト電子回路部門県大会優勝、北信越大会敗退 高校生ものづくりコンテスト化学分析部門県大会優勝、北信越大会奨励賞（第4位）</p>
<p>工業7学科</p>		<p>〔地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会〕の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した</p>	<p>〔地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会〕（工業7科）最終評価（A） 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2019優勝、ベストラップ賞</p>	
<p>工業7学科</p>		<p>各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選</p>	<p>各種コンテスト、コンクール（工業7科）最終評価（A） 全国児童生徒「明るい選挙啓発ポスター」（全国審査）文部科学大臣・総務大臣賞 国土緑化運動・育樹ポスター原画コンクール（全国審査）特選、農林水産大臣賞 高校生ファッションコンテストクラフトデザイン部門グランプリ 愛鳥週間用ポスター原画コンクール（全国審査）入選 全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（ファッション甲子園）出場 環境月間ポスターコンクール（県審査）最優秀賞、優秀賞 高校生ファッションデザイン画コンテスト入賞 令和元年度高校生生溶接コンテスト（県大会）優勝</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・就職率は大変良い。ただし、離職率についても調査をしていく必要がある。 ・ジュニアマイスターについては、昨年の同時期に比べてむしろ特別表彰、ゴールドの人数が増えており、シルバーの人数がシフトしたと考え、もっと評価が高くなって良いのではないかと。（学校関係者評価委員会が行われた2月7日の時点では、特別表彰7名（前年同時期より4名増）、ゴールド28名（同8名増）、シルバー14名（同16名減）であった。）</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・就職指導において、今後、面接や筆記試験対策をさらに充実させていく。 ・資格取得やコンテスト・コンクールに向けた指導を充実させ、生徒の能力を引き出し、進路実現につなげる。 ・各種コンテスト・コンクールを担当するベテラン教員の指導のノウハウを後輩教員に伝承する取り組みを強化し、成績の維持向上を図る。</p>			

令和元年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。 [継続] A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課)最終評価(B) 部・同好会加入率は93%と、ここ最近では最も低い加入率であった。1年生は97%とほぼ例年並みの加入率であったが、特に2年生が加入率の落ち込みが大きかった。担任や顧問を通して再入部や転部等を進めていきたい。また、新入生の勧誘にも積極的に働きかけていきたい。 (生徒会課)最終評価(C) 全国大会出場部は男子バレーボール部、ボクシング部の2部だけであった。また県高校総体順位も男子総合5位、男女総合6位という、ここ最近では最も低調な結果であった。各部に高い目標設定を促して、奮起に期待したい。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切に、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 [改定] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	(生徒会課)最終評価(A) 学校行事の満足度は保護者が多く参加していることもあり、約97%と概ね高評価だった。今後も生徒が積極的に取り組めるようにしていきたい。また、生徒会の各種委員会の活動場を増やし、より魅力ある学校行事にしていきたい。
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 [継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	(保健課)最終評価(B) 中間評価Dをうけて、部活動顧問から受診勧告をした結果、受診率が29.6%と昨年度並みになった。 受診率は例年と変わらないが、未受診者の人数をみると現在100名ほどおり、以前の200名に比べると大幅に減少している。これまでの継続した指導の結果が出たので、来年度からは、新しい課題に取り組んでいきたい。
5 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	業務改善を着実に進めているかについて、各教科・学科、各課にアンケートを実施し、肯定的評価の割合で判断する。 [改定] A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満	(各科・学年・各課)最終評価(D) 担当する校務分掌について業務改善が着実に進んでいるかについてアンケートを実施したところ、肯定的評価は、「かなり進んでいる」が10%、「少し進んでいる」が37%で合計47%しか得られず、D評価である。 次年度に向けて、書類等のペーパーレス化、グループウェアの活用促進、学年行事の見直し、学年団や学科による担任業務の分担、部活動指導の分担、風通しの良い協力体制づくり等、今後取り組んでいくべき課題が具体的に挙がっており、できることから速やかに実践し、業務改善を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事が盛んであることは大変良いことである。生徒の心身の成長のために、今後も内容を充実させていただきたい。 歯科受診の生徒が少ないのが気がかりである。速やかに受診を促すべきである。 業務改善について、学校行事の見直しを図るとあるが、具体的に示す必要がある。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事等の課外活動をととして、粘り強くたくましい体力と精神力及び多様な人々と協働することのできる社会性を培う。 保健指導を充実させ、生徒が自身の健康問題への関心を高め、自ら積極的に解決していこうとする態度の育成を図る。 新スクールネットの有効活用、重複する行事の削減等、できることから積極的に取り組み、業務改善を着実に進めていく。 			